

(様式第4号)

図書館協議会 会議概要

1	審議会名	図書館協議会
2	日 時	平成 28 年 10 月 28 日 午後 6 時 30 分から午後 8 時 30 分まで
3	会 場	上田情報ライブラリー
4	出席者	中澤会長、新山副会長、山崎委員、小竹委員、加藤委員、中西委員、横山委員
5	市側出席者	山崎館長、飯島館長、山口次長、土屋次長、木嶋次長、金田係長、囑託職員内山、土屋係長
6	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者	3 人 記者 人
8	会議概要作成年月日	平成 28 年 10 月 28 日
協 議 事 項 等		
1	開 会	
2	会長挨拶	
3	協議事項	<p>会議録の修正について</p> <p>(委員)</p> <p>「資産」を「試算」にする。</p> <p>(1) 前回の協議会での指摘事項で、上田図書館の歴史的背景の修正点について</p> <p>(委員)</p> <p>実際には、明治記念館は建てられたが、記念館としての運営はあまりされていなかった。むしろ、明治記念館設立趣意書が上田図書館の歩みとなったことが重要である。趣意書に示された市民の生涯教育の場としての意図が重要であり、上田図書館の歴史的背景となっている。市民の運動や支えがあり、昭和 45 年に現在の図書館が建てられた。市民が参加して作られたことが重要である。図書館の施設整備という項目の中なので、記載した方がいいのかは、この協議会で決めていただきたい。</p> <p>(会長)</p> <p>上田図書館の歴史的背景ですが、実際には明治記念館の運営はされていなかったもので、そのことに関する記載は避け、基本構想としては、「同窓会は明治記念館設立趣意書を提出し」、または「上田図書館は大正 11 年の上田男子尋常小学校同窓会による明治記念館設立趣意書に始まり」としたらどうか。</p> <p>(委員)</p> <p>補足すると、昭和 45 年のときに現在の図書館に移った経緯は市民の力が大きかったからで、是非新しい図書館を建ててほしいという思いに、その時の市が心を動かされたという経緯がある。</p> <p>(会長)</p> <p>基本構想には、「市民の強い要望を受けて、昭和 45 年に現在地に移転し」、としたらどうか。</p> <p>(委員)</p> <p>正確な方がいいので、何年かというところは調べていただきたい。</p> <p>(事務局)</p> <p>上田市誌には「上田男子小学校同窓会」となっているので、このようにします。</p> <p>(2) 80 万構想について再度修正等も含め説明</p> <p>前回お配りした資料は改訂前(1999 年)の L プラン 21 (図書館協会が示している基準数値)の数値</p>

を基に作成した資料であったため、改訂後(2003年)のLプラン21の数値(以下「改訂Lプラン21(2003)»)で新たに資料を作成した。2003年以降Lプラン21は改訂されていないが、もし2015年の数値を使用してLプラン21と同じ考え方により試算した数値(以下「推計値(2015)」)は74万1千冊になる。今までに公表されている各年の数値を基に、県内19市の各年の数値を試算した場合、2015年を基準とした2003年との12年間の伸びと、2010年との5年間の伸びは、1年間に換算した19市の平均は、前者は1.56%、後者は1.03%になる。伸びは鈍化しているが、地域資料等は毎年増え続けることを考慮すると80万冊は桁はずれの数字ではない。

(委員)

80万冊構想ということはそれだけの許容量が必要であるあり、それだけの図書館が必要であると考えてよいのか。

(事務局)

蔵書数が多ければ大きい図書館が必要になる。除籍をしていったとしても、数字的に見れば80万冊は必要ではないかと考える。

(事務局)

改訂Lプラン21(2003)に沿って小諸図書館、大町図書館は建設されていると推測できる。東御図書館については改訂Lプラン21(2003)よりも大きく建設されたのではないかと推測できる。また、もし、現時点の数値でLプラン21が改訂された場合は、小諸図書館の規模は基準より小さくなってしまう。

上田市の人口である15万人前後の、全国の図書館の純増率は、受入冊数に対して44%ほどである。上田市は年間およそ19000冊の受入であり、全国平均率で考えると、8,429冊になる。毎年この冊数が増になると50年後は96万冊で大きな数字になる。

純増分を5,000冊と考えると、80万冊に近い数値になるが、推計値(2015)に対しては、108%になるが、毎年若干ではあるが増え続けることも考えると妥当ではないかと考えられる。

人口は年々減少傾向にあり、「上田市公共施設マネジメント方針」では2060年の上田市の人口を113,285人と推計している。2015年から50年後の2065年の人口を108,573人と仮定し推計値(2015)にあてはめると、515,479冊と試算される。先ほど過去5年間の毎年の伸び率は1.03%と説明したが、毎年1.03%蔵書数を増やすこと。515,479冊×1.03% 約5,300冊ずつ増えることとなり、50年後は、515,479冊+(5,300冊×50年) 約78万冊余りになり、80万冊が妥当な数字ではないかと考えられる。

(委員)

蔵書数の80万冊という数字はこの基本構想に記載されるのか。協議が不十分ではないのか。

(事務局)

基本構想については、ソフト面だけでなく、ある程度ハード面での方向性・規模は載せていきたと考える。

(委員)

想定する除籍数が多すぎるのではないのか。例えば書庫がいっぱいになったとしても、いろいろな保存の仕方があるかと思う。選書を十分ににして、除籍数字にあまり縛られない方がよいのではないか。

(会長)

現在、除籍する場合は、どのようにしているのか。

(事務局)

利用頻度・重複・時代に合った価値があるかどうかなどを総合的に検討して除籍する。

(委員)

重複に関してはどの範囲で考えているか。上田市内あるいはエコールといった範囲なのか。

(事務局)

利用頻度・エコールも視野には入れている。エコール内に1冊しかなければ保存していく場合もある。エコールも一つの基準として考えている。

(委員)

全国では、なるべく保存をしていく方法を考えている図書館もあり、保存をするシステムづくりをしている。80万冊という数字にこだわらず、保存していくことも考えていただきたいという希望がある。

(会長)

ソフト面での、運営についての選書に対するの意見と考えていいか

(委員)

構想の中で、ある程度の規模の数字を想定しなければならないので、推定数字を出しているわけで、個人的には上田市で蔵書数をあまり増やさなくてもいいのではないかと考える。エコールを一つの図書館と考えれば、エコールで、80万冊にはなっていると思うし、共通の財産といえるのではないかと。エコールをもっと活用したらどうか。

(会長)

エコールの利活用も重要だと考えるが、上田市の財産という視点で考えると、実際に蔵書しているということが大事だと考える。

(事務局)

純増分5,000冊というのは、エコールも活用しないと成り立たないことで、それでもかなり厳しい数値と考えられる。除籍することのできない郷土資料の2,000冊は毎年増えていく。しかし、人口減少など総合的に考えると、あまりに大きい規模の図書館を想定すると、市民の理解が得られるかが懸念される。

(委員)

5,000冊の純増分の所蔵は上田図書館になってくるのか。

(事務局)

現在、丸子図書館も真田図書館も満杯状態なので、上田図書館で保存というか形になると思う。市内4館で十分検討し、選書していかなければならないと考えられる。

(会長)

大変厳しい状況で、質のいい除籍をしていかないといけない。

(委員)

限られた時間の中で除籍をしなければならないし、十分な検討も必要となる。保存方法の研究も必要ではないか。閉架書庫も十分考えていかなければならない。

(事務局)

あくまで構想ですので、詳細に述べてある部分もありますが、方向性を示していきたいと考える。

(委員)

資料保存と除籍については、別の項目ですでに記載されている。

(委員)

施設整備を考える上で、複合施設にするのか。

(事務局)

方向的には、単独では難しい状況になってきていると考えられる、公共マネジメント方針もあるので、複合も視野にいれて、考えていかなければならない。

(会長)

市民の文化をどう維持していくか総合的に考えると、複合の方向に向かっていると考えられる。

(委員)

貸出返却も図書館の重要な業務である、レファレンスと同様に重要と考えてほしい。

(委員)

図書館の施設整備で「50年ちかく多くの市民や団体に利用されておりますが」を「半世紀にわたり多くの市民や団体に利用されておりますが」とし、「図書館法の規定により公立図書館となりました」は「図書館法に基づく公立図書館となりました」としたらどうか。

(委員)

デジタルアーカイブ化の記載が少ないのではないかと。いろいろなことを考える必要がある。デジタル化の時代になってきおり、50年先をどの程度反映させたいか考える必要がある。

また、この構想を 50 年後具体化するには、この構想に記載する数値を慎重に考える必要がある。

(事務局)

デジタルアーカイブ化をしていきたいところであるが、予算的な問題もあり、できる範囲で行っていく。

(委員)

最近の他の図書館はどうか。これからの時代を考えると、デジタルアーカイブ化については、この構想では弱いのではないか。

(事務局)

検討いたします。

(委員)

上田図書館は貴重資料も多いので、実際に手にとって見ることも重要ではないか。

(会長)

何のためにデジタル化するのか、貴重資料の劣化を防ぐのためなのか。保存スペース確保のためなのか、意図を明確にする必要がある。実際にスペース的な問題があり、確保するのは難しい。

(委員)

デジタルアーカイブ化は、これからの図書館のサービスの一つであるのではないか。花月文庫も大切ですし、どんな人にも見ていただけるサービスをし、貴重資料を世の中の動きに反映させる形が望ましい。

(事務局)

図書館の資料を活用していくことが重要であり、多くの方に見ていただくことが図書館の使命と考えている。

(会長)

11 月中に答申として渡したいので、会長・副会長で最終的な形にしていきたい。

(委員)

もう少し複合化について話を持った方が良いのではないか。

(会長)

一般的な流れからすると、複合化の方向になっている。具体的な検討段階で考えていくべきことで、現段階の基本構想では、これでよいのではないか。